第３Ａ(中)　分科会　◆教育環境整備に関する課題◆

提案主題　特別支援教育を推進するために、教頭として組織的にどのように教育環境整備を行うか
サブテーマ　～支援の必要な生徒が生き生きと学校生活を送るために～
協議の柱　特別支援教育を推進するために、教頭として組織的にどのように教育環境整備を行うか。具体的な方法は？

提言者　竹田市立竹田南部中学校　　安　東　大　暁

1　質　　疑

⑴　Ｑ　Ａに関わる４人の教職員の指導に対する思いをどのように共有していったのか。
　Ａ　学年長に４人での打ち合わせを提案。学年会を持ち共通理解をし、役割分担をしていった。今後、保護者の思いを聞く機会をもつ予定である。

⑵　Ｑ　施設の改善、支援体制についての小中の情報交換はできていたのか。
　Ａ　入学前にＡと保護者に中学校に来ていただいて、施設面の確認をし、市教委に要望を出した。他の生徒とのコミュニケーション不足については情報共有が充分ではなかった。６月に小６時の担任３名との小中連絡会を行い情報交換をした。

2　協　　議

⑴　支援体制作りに関しては、合理的配慮の共通理解を始めとした校内研修が必要である。
　特別支援教育コーディネーターへの指導や特別支援委員会の内容を、職員会議で共有するように働きかけることも重要である。
　施設設備や環境整備の要求に関して、初期段階の保護者の要望の把握のみならず、実際に生活してみての困りを早期に発見して解決していく必要がある。

⑵　人的支援、物的支援双方に関して３年間を見通して全職員に広げていく、全職員をまとめていく必要がある。そのためにも、支援員の話を聞く会や、外部の専門家を招いて話を聞く会を持つことも有効である。

⑶　コーディネーターをはじめとした体制づくり・役割分担が大切で、支援委員会でコミュニケーションをとっていく必要がある。また、教頭も授業に関わり、困りの確認を随時行う必要がある。友だちづくりの工夫、合理的な配慮やＵＤの視点での研修も必要である。

3　指導助言

⑴　キーワードは、人的支援では「共通理解」、物的支援では、「行政への働きかけ」

⑵　生徒間のコミュニケーションづくりについて、要因の究明のために、小学校時代に学ぶ、生徒に聞いてもよい。他の保護者の協力も得て、チーム「竹田南部中」で進めていく。

⑶　共通理解の場を持ちニーズや困りの把握をし、具体的な対応は「見える化」しておく。

⑷　職場の気持ち合わせのためにも、研修の場をもち専門性を高める。まずは他の実践をまねることから始めて、実情に合わせながら改善していく方向で進める。

⑸　行政、関係機関への働きかけは、後追いにならないよう、ダメもとでも申請する。校長、地域の方、議員さん等に協力を依頼する方法も考えられる。

⑹　教頭は学校の旗振り役。職員、保護者、関係機関を繋ぐ調整役になることが大切である。